



ご あ い さ つ

校長 市川美紀子



平成25年度、緑中学校は、全校生徒67名と職員25名でスタートを切りました。私が着任いたしました平成23年度は、新しい学習指導要領の全面実施までの最終年でした。教育基本法改正等で明確になった教育の理念を踏まえ、学校教育目標の検討会議を発足させ、皆で熱く議論を交わしたことが甦ってまいります。

生涯を通じて自己を見つめ、自分にとっても他にとっても善いことを、各人の個性をもって実践していく態度の育成・・・つまり、自分にとってより良い人生を自分の力で紡いでいくための土台を築くゼロ地点として、今を認識できればと考えました。

学校教育目標

「誠」 誠実に学び、高い志をもつ生徒に育てる

「朗」 共に支え合う、清らかで人間性豊かな生徒に育てる

「韌」 未来を切り拓く、しなやかでたくましい心と体を育てる

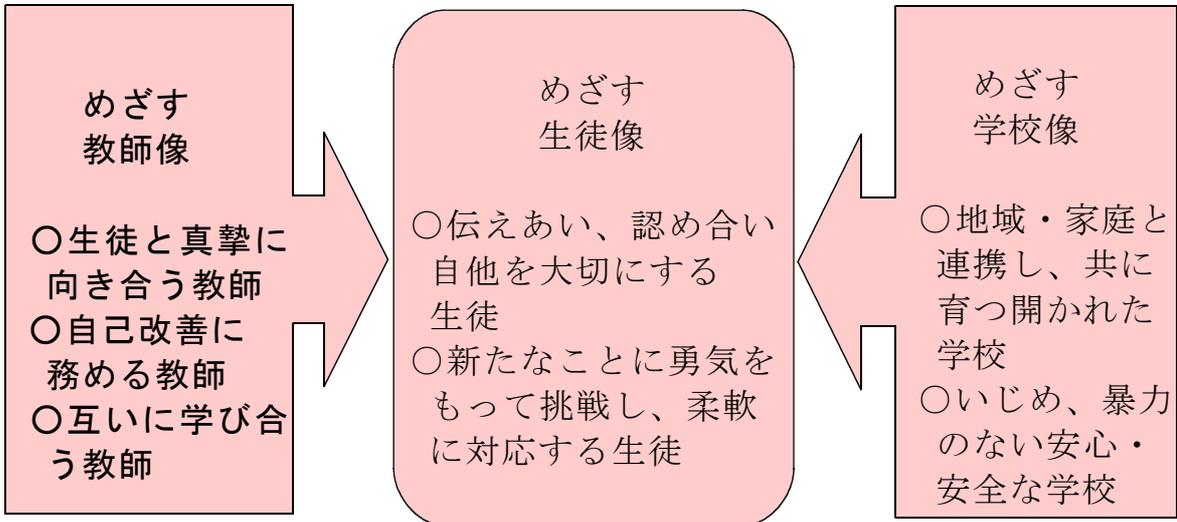
この学校教育目標を実現させるために、組織としての縦糸とチーム力としての横糸をしっかりと紡いでいきたいと考えております。

学校スローガン

Be cheerful !

(明瞭であれ、快活であれ)

「今、ここ（COCO）」を大切に、対話力、交渉力をもって機を逃さずに自分を表現し、焦らず、銜わず、平常心をもって皆で違いを生み出します。



平成23年3月に東日本大震災に見舞われてから、2年が経過しましたが、復興までにかかる年月は、10年とも20年とも言われております。そうなりますと、その復興に一番に力を注げるのが、今現在の子どもたちです。

「変えられないことを受け止める静けさと、変えられることを変えていく勇気と、その二つを見極める知恵が大切」なわけですが、人々のために、日本復興のために、行動を起こすことの出来る成人に成長することが、日本の明暗を分かつことになると考えます。子どもたちの成長に、多大な影響を及ぼす教育の専門職というものに対して、改めて重責を感じております。

さて、清川村は、国内のダムでは日本一の観光客を誇る宮が瀬ダムを有し、かつてはヘボン式ローマ字の考案者であるジェームズ・カーティス・ヘボンら欧米人からも愛された県下唯一の村としてキラリと光る存在です。

自然の美しさも去ることながら、そこに暮らす人たちが郷土宮ヶ瀬を、郷土煤ヶ谷をこよなく愛する気高さを持ち合わせていらっしやいます。私たちは、このような地で、教育に携わることへの期待と喜びが原動力となっています。小規模校の利点と課題の整理を的確に行い、私たち一人ひとりが、あらゆることへの可能性を秘めた子どもたちを心から敬い、よき導き手となって、惜しみなく個々の教育への情熱を発揮できることを改めて実感しております。

今年度は、「いのちを大切にする心を育む教育」の推進校として、これまで積み上げてきた心の教育を指導の最重点として捉えております。

自己を見つめることを毎日の習慣とする「自己内省」の時間を設定し、生徒も職員も共に取り組みます。更に、人としての善さを、美徳の教育プログラムや人間関係スキルの活用により確かなものにしていきます。

本校が使命として掲げている「自己肯定感の高い生徒を育てる」ために、生徒を中心に据えて、保護者、地域の皆様、村立幼稚園、同小学校とのますますの連携をもって一歩、一歩、確実に歩を進めてまいります。

どうぞ、よろしく願い申し上げます。

